

女性標示語としての「女～」と“女(nv)～” —日中対照研究の試み

徐 微 潔

1. はじめに

女性標示語⁽¹⁾は「職業や身分などを表わす形態素の前に来て、当該の職業や身分を有している女性を表わす「女～」「女子～」「女性～」「女流～」「婦人～」などの呼称のこと」(徐2012:37)である。日本語には上記の女性標示語があるが、中国語にも「女(nv)～・女子(nvzi)～・女性(nvxing)～・妇女(funv)～・美女(meinv)～」などが見られる。

上に見られるように、日中両言語の女性標示語には同形語が多く、「女作家 ⇄ 女作家」「女教師 ⇄ 女教师」「女子選手 ⇄ 女子选手」「女性政治家 ⇄ 女性政治家」など、一見すると、対応しているように見える。しかし、実際は対応していない場合も多い。下記(1)と(2)で示したように、日本語の「女子学生」と「女流画家」を中国語に訳すと、それぞれ“女学生”と“女画家”になる。“女子学生”と“女流画家”は中国語として適切な表現ではない。なお、「*」は言い換えができないことを示し、「?」は言い換えは可能であるが、当該のコンテキストでは不自然になることを示している。

(1) a 同大の規矩大義教授は「昔は土木を学ぶ女子学生は珍しかったが、今では普通」。(朝日2010/12/15)

b 同一所大学の規矩大義教授说：“以前学习土木工程的女学生（*女子学生）很少，但是现在很普遍。”

(2) a 広島県出身の女流画家・丸木スマ（1875～1956）の作品展。(朝日2010/11/5)

b 広島県籍女画家（*女流画家）丸木诗玛（スマ）（1875～1956）作品展。

本稿では、中国語の女性標示語の中で圧倒的な割合を占めている“女(nv)～”と日本語の「女～」を対象に、両者の対応・非対応関係を整理して、その相違が生じる要因を明らかにすることを目的とする。

「女～」と“女(nv)～”それぞれに関する研究についてはかなりの蓄積がある(Nakamura1990、漆田1993、菊池1995、田中・女性と新聞メディア研究会2006、盛2001、楊2003、任2010など)が、日中対照の観点から女性標示語を考察した研究としては、林(2009)と徐・房(2010)が挙げられる程度である。しかし、林(2009)と徐・房(2010)には「女～」と“女(nv)～”に関する詳しい考察が見られず、「女～」と“女(nv)～”の後項要素、個々のケースにおける両者の対応・非対応関係などについては不明な点が多く、さらなる考察を行う必要がある。

以下、本稿では、第2節において使用するデータの概要及び研究対象を提示し、第3節にて、日本語の「女～」と中国語の“女(nv)～”を比較・対照し、その相違を明らかにする。そして、第4節で相違が生じる要因を探り、第5節にまとめを記す。

2. データの概要及び比較対象の認定

日本語のデータは日本で発行部数が第二位で、購読率の高い全国紙である『朝日新聞』を、中国語のデータは『人民日報』を利用した。『人民日報』も全国紙で発行部数第二位である。検索対象は、前者が『朝日新聞』朝夕刊、後者が『人民日報』『人民日報海外版』とし、一年分の記事(2010年1月1日から12月31日まで)を調査し、各女性標示語の用例を収集した。

検索でヒットした用例のうち、本稿における「女性標示語」の定義と一致しない日本語の「女衆」「女同士」「女性財団」「女流文学」「婦人服」や中国語の“女单教练”“女厕所”“女性健康”“妇女节”などは除外した。

3. 調査結果と分析

3.1 調査結果

調査の結果、『朝日新聞』からは女性標示語「女～」「女子～」「女性～」「婦

人～」など、計12種、727の語例が、『人民日報』からは“女(nv)～”“女子(nvzi)～”“女性(nvxing)～”“妇女(funv)～”など、計9種、355の語例が抽出された⁽²⁾。各女性標示語の使用頻度と割合を表1と表2に示す。

表1 日本語の女性標示語 ()内は割合

女性標示語	異なり語数	延べ語数
女～	48 (6.6%)	5959 (31.3%)
女性～	458 (63.0%)	5823 (30.6%)
女子～	128 (17.6%)	6456 (33.9%)
婦人～	10 (1.4%)	52 (0.3%)
女流～	39 (5.4%)	653 (3.4%)
その他	44 (6.0%)	92 (0.5%)
計	727	19035

表2 中国語の女性標示語 ()内は割合

女性標示語	異なり語数	延べ語数
女(nv)～	250 (70.4%)	2029 (90.6%)
女性(nvxing)～	66 (18.6%)	114 (5.1%)
女子(nvzi)～	8 (2.3%)	12 (0.5%)
妇女(funv)～	10 (2.8%)	52 (2.3%)
その他	21 (5.9%)	33 (1.5%)
計	355	2240

表1と表2から分かるように、日本語では、「女～」の異なり語数は48で、全体の6.6%にすぎないが、延べ語数は5959で、全体の31.3%を占めている⁽³⁾。一方、中国語では“女(nv)～”の異なり語数は250で、全体の70.4%を占め、延べ語数は2029で、全体の90.6%を占めている。

3.2 分析

以上より、日本語の「女～」は一定の使用は見られるものの造語力が高くないのに対し、中国語の“女(nv)～”は使用頻度も造語力も非常に高いことが分かった。

本節では、1節で述べた研究目的に沿って、「女～」と“女(nv)～”の接続制約に着目し、日中両言語の女性標示語体系におけるそれぞれの位置付けについて検討する。

3.2.1 「女～」の女性標示語体系内での位置付け

調査で抽出したデータをまとめると、下記表3のとおりである⁽⁴⁾。

表3 「女～」の語例

形態的特徴	語例
オンナ 【自由形態素】 (28語)	女主人、女友達、女達磨、女芸人、女君、女三四郎、女刑事、女主人公、女社長、女探偵、女船頭、女將軍、女店主、女忍者、女芭蕉、女海賊、女城主、女刑務官、女殺し屋、女相場師、女わらしっこ、女患者、女看守、女作家、女車引、女首領、女囚人、女教師
ジョ・ニョ・メ 【拘束形態素】 (21語)	女兒、女優、女王、女学生、女帝、女生徒、女官、女医、女中、女工、女囚、女傑、女給、女丈夫、女高生、女賊、女将、女神、女孫、女店員、女教師

徐(2012:64)では、「女流～」は特定の分野で使われ、「芸術・技芸」と「囲碁・将棋」に従事する女性によく使われている」ことを、また、徐(2013:33)は、「女子～」は「教育関連」、「スポーツ関連」のことばの前によくつく」ことを指摘し、その後項要素の特徴について言及した。それらの例を(3)～(6)で示す。

- (3) 平安時代の女流歌人・和泉式部が復縁祈願したことから、縁結びの神としても名高い。(朝日2010/6/2)

- (4) しかも、お相手は、超人気の女流棋士・坂東香菜子さん。将棋が分からない人でも、贅沢な気分が味わえるに違いない。

(Tokiyoshi Otsuka/Yutaka Akahoshi 『BRUTUS』)

- (5) 野々市町で8日、中学1年の女子生徒 (13) が連れ去られた事件は裁判員によって裁かれることになった。(朝日2010/12/29)
- (6) 姉の紗暉さん (17) も昨年、最年少で女子プロボクサーになったばかり。(朝日2010/5/29)

「女～」は「性別の一つ」を表わすため、女性標示語として様々な語に前接することが予想されるが、日本語では汎用性の高い女性標示語は「女性～」であり、「女～」ではない。今回の調査では、「女～」には、芸術・技芸関連の「画家」「詩人」「小説家」「義太夫」や囲碁・将棋関連の「棋聖」「本因坊」「王将」、スポーツ関連の「選手」「ボクサー」「プロゴルファー」などとの結合の例はなかった。また、教育関連では、「女～」は「児童」とは結合せず、「学生」「生徒」との結合も一般的ではないと言える。表3にあるように、「女学生」「女生徒」の用例もヒットした。しかし、「女学生」は戦時中の高等女学校の学生のことを指すことが多く (92.5%)、「女子学生」とは意味も用法も違い、置換できない (例 (7))。また、「女生徒」は「女子生徒」とほぼ同義で、置き換えられるが、使用頻度は「女子生徒」のほうが圧倒的に高い。今回の調査で「女生徒」の78例に対して、「女子生徒」は約24.3倍の1896例がヒットした。

- (7) 戦時中、私は女学生で、日の丸に必勝と書いた鉢巻き、緋のもんぺ姿。(朝日2010/1/23)

以上のように、日本語の「女～」はその抽象度の高い意味に反して、後続する要素には接続制約が見られる。「女～」は「女子～」や「女流～」と同じように女性標示語の体系内で特別な位置付けになっていると考えられる。

3.2.2 “女 (nv) ~”の女性標示語体系内での位置付け

調査で収集した中国語のデータを表4に示す。

表4 “女 (nv) ~”の語例 (頻度上位8語)

語 例	延べ語数	異なり語数
女孩 (nvhai)	511	
女生 (nvsheng)	144	
女孩子 (nvhaizi)	69	
女友 (nvyou)	52	
女主角 (nvzhu jue)	50	
女工 (nvgong)	47	
女大学生 (nv daxuesheng)	46	
女青年 (nvqingnian)	42	
その他	1068	242
計	2029	250

表3で示された日本語の「女～」と比べ、中国語の“女 (nv) ~”の後項要素は多種多様である。また、“女 (nv) ~”以外の女性標示語で結合した語の前項要素はほぼ全部“女 (nv) ~”に置き換えられる (例 (8) ~ (10))。このような結果は“女 (nv) ~”は区別詞である性格を端的に表わしていると思われるが、“女 (nv) ~”の形態的特徴については4.2節で詳しく論じる。

- (8) 来自北京的王秀兰是女子选手(女选手)中年齡最大的, 今年已经68岁了。(人民2010/9/15) (北京から来た王秀蘭さんは女子選手の中で最年長で、今年68歳になった。)
- (9) 他主办上海平民女校, 使之成为党培养妇女干部(女干部)的摇篮。(人民2010/10/5) (彼は上海平民女学校を創設し、これを党の婦人幹部養成の基地とさせている。)
- (10) 此外, 42岁的女性议员(女议员) 莲舫成为新内阁的一大亮点, 标志

着华裔首次成为日本的内阁大臣。(人民2010/6/9)(その外、42歳の女性議員蓮舫さんが新内閣の注目株となり、中国系日本人初の内閣大臣となった。)

ただし、“女(nv)～”に置き換えると意味が変わったりすることもあるため、置換できても、文として成立しなくなる場合もある。(11)と(12)で示す。

(11) a 在台湾, 记者接触了3位嫁到台湾的大陆女性朋友(*女朋友)。(人民2010/11/3)(記者は台湾で、大陸から台湾に嫁いでいった三人の女性に出会った。)

b 过了30岁的儿子小陈和女朋友(*女性朋友)谈恋爱有两年多了, 陈功然和严淑玉也想让他们考虑考虑结婚的事了。(人民2010/10/19)(30過ぎの息子の陳さんが彼女と二年以上も付き合っているのです、両親の陳功然さんも嚴淑玉さんも二人に結婚のことを考えさせたがっている。)

(12) a 正是由于她思想活跃, 有强烈的发展意识, 2007年当上了村里的妇女主任(*女主任)。(人民2010/7/10)(彼女は頭の回転も早いし、向上心も強いからこそ、2007年に村の婦人主任に選ばれた。)

b 上级领导说, 冯志宏是全市110个警务站中唯一的女主任(*妇女主任), 也是把综合服务和日常警务做得最好的主任之一。

(人民2013/3/31)(馮志宏さんは市に110ある警務部の中で唯一の女性主任であり、総合サービスと日常警務が最もよくできた主任の一人でもあると上司が言った。)

中国語の“女性朋友”は「女性」や「女友達」の意味を表わしているため、(11)の“女性朋友”と“女朋友(彼女/恋人)”をそれぞれ置換すると、文として成立しなくなる。また、(12)の“妇女主任”は「婦人連合会の主任」などの意味なのに対し、“女主任”は「女性の主任」という意味を表わす。

このような場合は置換できない。

上記のとおり、一部置換できない場合はあるものの、中国語の“女(nv)～”は、使用範囲が広く、日本語の「女～」と異なり、「女という性別の一つ」という抽象的な意味を表わす女性標示語として体系内に存在していると言える。

4. 相違が生じる要因

3節で、一見すると同じように見える、日本語の「女～」と中国語の“女(nv)～”の使用頻度、接続制約の側面における違いが女性標示語の体系内での位置付けの違いにあることを見た。それぞれの位置付けを、細かな重なりなどを捨象して、図示すると図1のようになる。

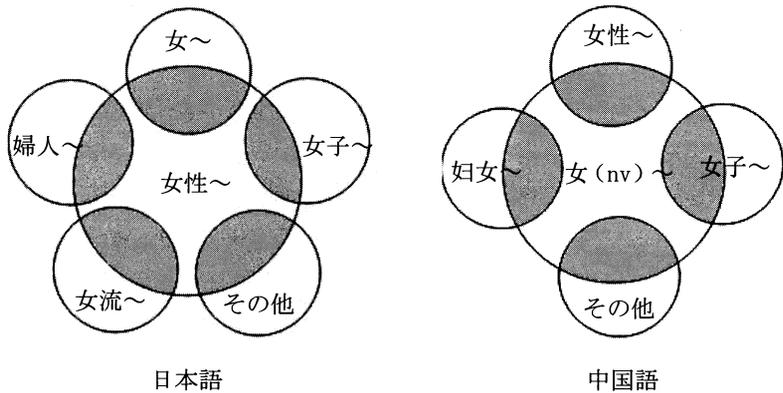


図1 「女～」と“女(nv)～”の位置付け

図1から分かるように、日本語では汎用性が最も高い女性標示語は「女性～」であり、「女～」は女性標示語の体系内で特別な位置付けになっており、その一部は「女性～」と置き換えられる。それに対して、中国語では“女(nv)～”が汎用性が最も高く、一部の語を除く、他の女性標示語と置換できる。

以下、本節では、なぜこのような違いが生じるのかを検討する。

4.1 「女（オンナ）～」の持つ性的ニュアンス

「女（オンナ）～」は自由形態素であるため、名詞として単独でも使われる。単独用法の「女」は「男」の対語として、女性というジェンダーを表わし、「女性、婦人、女の人」の意味で、ふつう成人女性を指す。例えば、(13)～(15) のようなものである。

- (13) そして何より、男に生まれず、女でよかったと思う。女として生きてこられたことが、おもしろいと、今も女であることを楽しんでい
る。(マダム路子『いま、四十代を生きる女へ』)
- (14) 英子はかなり気の強い女であったといえます。(大倉崇裕『丑三つ時
から夜明けまで』)
- (15) 美を求める女の執念と、美を手に入れるための女の忍耐力…すごい
わー。(Yahoo!ブログ2008)

しかし、「女」は女性というジェンダーを表わすほかに、以下のように特別な意味合いを持つ場合がある。

- (16) 真面目な男性に見えても同じ社内で次々と女性を変える人は、いずれ
女問題（女性問題/*婦人問題）で失脚します。
(<http://okwave.jp/qa/q7422603.html> 2013/5/5参照)
- (17) 酒・煙草・博打・女（*女性/*女子/*婦人）！よく、酒・煙草・博
打・女（男）、全てやっている人はダメ人間かの代名詞のように言わ
れますが…。(Yahoo!知恵袋2010/10/20)
- (18) a 桃子はまだ10歳なのにもう女（*女性/*女子/*婦人）になった。
b 泰久はずっと刑務所暮らしだったので、女（*女性/*女子/*婦
人）をほしがっている。
c うちの会社にいい女（*女性/*女子/*婦人）がいる。

(Nakamura1990:155改)

孩) 无一不沾的人通常被认为是人渣.....。

(18') a 桃子才10岁却已经是一个女人(=有性经历/*女/*女性/*妇女/*女子/*女孩)了。

b 泰久一直在监狱服刑, 因此满脑子想的都是女人(=性爱/*女*女性/*妇女/*女子/*女孩)。

c 我们公司有一位温柔性感的女人(*女/*女性/*妇女/*女子/?女孩)。

訳文から分かるとおり、「性の対象物」の意味合いの「女」は中国語の“女人(nvren)”に相当する。中国語の“女(nv)”は「女性、与“男”相对。古代以未婚的为“女”、已婚的为“妇。”(女性、「男」と対になる。古代では未婚女性を「女」、既婚女性を「婦」と称する。)(『新華字典』)であり、“女(nv)”には「性の対象物」という否定的意味合いが読み取れない。また、“女(nv)”には“女人(nvren)”のようなマイナスイメージも感じられない。

4.2 「女(オンナ)～」 「女(ジョ)～」 と “女(nv)～” の形態的特徴

では、なぜ日本語の「女～」だけが性的ニュアンスを担うようになったのだろう。それは両者の形態的特徴と関わっていると考えられる。日本語の「女(オンナ)～」は、自由形態素である。よって、「女(オンナ)～」は名詞として単独でも使われる。

菊池(1995:109)は、単独用法の「女」について、「近世後期から、女性のセクシュアリティを露骨に表す言葉としての意味合いがよくなっていったのであり、儒教思想における男尊女卑の観念と相俟って、「女」の語感のなかに一種の差別語に近いニュアンスが付与されていったのである。「女」に込められたかかる差別的語感、その後近代社会にも引き継がれて、いつそうそのニュアンスを強めた感さもある。そして今日でも「女」という語は、一般的な性別用語として使用されながら、公式に呼んだり他称として用いるにはある種のためらいを覚えざるを得ない側面を、たしかに引きずっている」と指摘している。

つまり、女性標示語の「女（オンナ）～」は単独用法の影響を受けて、性的ニュアンスを担い、性の対象物という意味を担ったのだと考えられる。

一方、拘束形態素である「女（ジョ）～」は性的ニュアンスを持たない。両者の違いが端的に表れるのが、年齢制限という接続制約である。

(19) 日本の母子家庭の平均年収は243万円。搾取され続けるその前途を思えば、カンテツに耐え、女社長（*女子社長）の道をゆく中山さんには、がんばってもらいたい。（朝日2010/2/16）

(20) スピードスケートで冬季五輪5大会連続出場の岡崎朋美（39）が23日、第3子を出産した。2936グラムの女兒（*女子供）。
（朝日2010/12/25）

(21) 「女王」とも「天才」とも形容された。親友の女優中村メイコさん（76）は「夫（神津善行さん）がピアノの伴奏で歌うのを聴いただけで、ほぼ完璧に歌えた」。（朝日2010/12/25）

(22) 11日午前9時ごろ、上三川町上三川のあけぼし保育園で、女子園児（3）（*女園児）が同園の看護師沢口弘子さんが運転するワゴン車にひかれ、右足の骨が折れるけがをした。（朝日2010/11/12）

(19)～(22) から分かるように、「女（オンナ）～」には年齢制限が見られ、成人女性を指す。それに対し、「女（ジョ）～」には年齢制限がなく、非成人の「女兒」「女生徒」から成人の「女王」「女優」まで使われている。これは前者が性的ニュアンスを持つことからくる制約であると考えられる。

中国語の“女（nv）～”も「女（ジョ）～」と同様に性的ニュアンスを持たず、以下に見るように、低年齢の“嬰（赤ちゃん）”“娃（子供）”“童（児童）”“孩子（子供）”から“店主（店主）”“科学家（科学者）”“教授（教授）”“副市长（副市长）”“外交官（外交官）”など成人まで幅広い年齢層を指す語と結合でき、年齢制限という接続制約も持たない。

(23) 浑身冰凉的小女嬰，严重脱水，被迅速送到医疗队。任玲把小女嬰轻

轻地抱在怀里，用身体温暖这个弱小的生命。(人民2010/4/25) (全身が冷たく、深刻な脱水状態の小さな女兒が速やかに医療隊に搬送されてきた。任玲さんは女兒を優しく抱いて、自分の体温でこの小さな命を温めた。)

- (24) 半小时后，又有娃娃被发现，男娃、女娃，两个娃娃紧紧抱在一起。(人民2010/8/21) (30分後、また子供が発見された。男子児童、女子児童、二人の子供がギュッと抱きしめ合っている。)
- (25) 温家宝深情地说：“三强先生对国家有很大贡献，何先生在女科学家中也是少有的，是人中麟凤，所以照顾她是应该的。(人民2010/8/8) (温家宝首相は「三強先生は国に大きな貢献をしたし、何先生も非常に優秀な女性科学者なので、何先生の面倒を見るのも当たり前だ」と感情をこめて語った。)

“女(nv)～”は古代中国語では単独で使われていた(= (26) (27))ものの、現代中国語では“区別詞”(区別詞)または“非谓形容词”(非述語形容詞)となっており、単独で使用できず、常に名詞と共に起す(= (28) (29))。

- (26) 女也不爽，士貳其行。(《诗·卫风·氓》) (女性は何の間違いもないが、男性は前後の行動が矛盾している。)
- (27) 一女不织，或受之寒。(贾谊《论积贮疏》) (女性が一人でも布を織らないと、着るものがなくて寒さに見舞われる人が現れるかもしれない。)
- (28) 看来，外国记者也已对中国女排刮目相看了。(河北日報1990/4/17) (外国人記者も中国の女子バレーボールに注目するようになったと見える。)
- (29) 初二班赵雪雁等四个女学生坚持打扫女厕所，常年不断。(天津日報1982/4/3) (中学校一年生二組の趙雪雁さんら四人の女子生徒が長年女子トイレを掃除している。)

“女 (nv) ~”が「性の対象物」というマイナスイメージを担わなかった理由として、現段階では、①すでに“女人 (nvren)”がそのような意味を担っていたため、“女 (nv)”が担う必要がなかったから、②区別詞となり単独で使われないため、「女 (オンナ) ~」のように、他の用法における意味変化の影響を受けなかったから、の二つが考えられる。この二点については、さらなる検討が必要ではあるが、本稿では、上述の日本語において観察された現象から②の可能性を考えておきたい。

5. まとめ

本稿は、対応しているように見える日本語の「女~」と中国語の“女 (nv) ~”を取り上げ、使用頻度と接続制約という二つの側面における両者の相違とその相違が生じる要因について考察した。

日本語の「女~」と中国語の“女 (nv) ~”は使用頻度と接続制約において違いが見られる。使用頻度では、「女~」より“女 (nv) ~”のほうが高く、前者の約3倍である。接続制約では、「女~」のほうが制限が厳しく、“女 (nv) ~”は相対的に緩いと言える。

両者の相違にはそれぞれの意味的特徴と形態的特徴が深く関わっている。すなわち、日本語の女性標示語「女 (オンナ) ~」は名詞「女」の影響で性的ニュアンスを担うようになったため、女性標示語の体系内において特別な意味を担うようになったのに対し、中国語の“女 (nv) ~”は区別詞で単独で使われないため、そのような意味的变化を経ず、「性別の一つ」という抽象的な意味を持つ女性標示語として位置付けられた。このような体系内での位置付けの違いが使用頻度、接続制約の差という形で表面化しているのである。

今回は、「女~」と“女 (nv) ~”の対照研究を試みたが、その他の女性標示語の対照や日中女性標示語全般に関する対照研究は、本論内で記したものと併せて、今後の課題とする。

注

- (1) 同じような表現を田中（1984：195）では、「女性を“男性＝人間”から区別するための徴づけとしての“女〇〇”、“女子〇〇”、“女性〇〇”、“女流〇〇”といった語法を、かりに「女性冠詞」と呼んでおこう」と定義し、命名している。しかし、「冠詞」という語は言語学において、具体的な意味を持たない機能的な語の範疇である“article”を指す。日本語はその意味での冠詞を持たない言語であるため、この用語を用いるのは適切であるとは言えない。そこで、徐（2012）は、従来用いられてきた「女性冠詞」という用語に替えて、「女性標示語」という語を用いる。
- (2) 今回の調査では、日本語では「ママさん～・美人～・美少女～・少女～・主婦～・魔女～・おばさん～」、中国語では“妈妈(mama)～・美女(meinv)～・美少女(meishaonv)～・少女(shaonv)～・美才女(meicainv)～”も抽出された。しかし、用例数が少なかったため、本稿ではこれらの女性標示語を「その他」として取り扱う。
- (3) 「女～」には自由形態素の「オンナ」と拘束形態素の「ジョ」「ニョ」「メ」がある。以下の議論では両者を区別する場合は「女（オンナ）～」「女（ジョ）～」とし、特に区別する必要がない場合は「女～」と表記し、後者の三つは「異形態」と考える。
- (4) 「女教師」は「ジョキョウシ」とも「オンナキョウシ」とも読めるため、両方に加えてある。ただし、異なり語数の上では「女教師」という表記を優先し、一語として計算した。

参考文献

- 漆田和代（1993）「『婦人』『女』『女性』…一女の一般呼称考』『おんなと日本語』pp. 123-158
有信堂
- 菊池慶子（1995）『女性名称の歴史的変遷—「婦人」「女性」「女」についての覚書—』『聖和学園短期大学紀要』32 pp. 105-119
- 徐微潔（2012）『新聞記事からみた女性標示語「女流～」の現在』『ことば』33 pp. 50-68
現代日本語研究会
- 徐微潔（2013）『日本語における女性標示語「女子～」』『日本語と日本文学』55 pp. 22-37
筑波大学国語国文学会
- 徐微潔・房極哲（2010）『日中両言語の語彙に現れる性差について』『日本語教育』52

pp. 81-94 日本語教育学会

田中和子 (1984) 「新聞にみる構造化された性差別表現」磯村英一・福岡安則編『マスコミと差別語問題』pp. 179-201 明石書店

田中和子・女性と新聞メディア研究会 (2006) 「新聞において女性はどのように表現されているか—「新聞紙面にあらわれたジェンダー」第四回調査を中心に—」『国学院法学』43-4 pp. 69-162

中村桃子 (1995) 『ことばとフェミニズム』勁草書房

利 (2010) 「現代中国語とジェンダー」遠藤織枝・小林美恵子・桜井隆編『世界をつなぐことば—ことばとジェンダー/日本語教育/中国女文字』pp. 199-216 三元社

山本侑乃 (2006) 「「女性」を表すことばの変遷」『東京女子大学言語文化研究』15 pp. 128-133

林玉恵 (2009) 「女性の一般呼称を表わす日中同形語の意味分析—「女子」「女性」「婦女」「婦人」を中心に—」『大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告』16 pp. 73-94

商务印书馆 (2013) 《新华字典》商务印书馆

盛林 (2001) “区别词“男”、“女”与中心词语的搭配”《南京大学学报》2 pp. 124-130

徐微洁 (2012) “日语中“女性标示语”使用现状考察—以『朝日新闻』的报道为例”《日语学习与研究》1 pp. 37-43

杨晓黎 (2003) “以性别词素“男、女”构成的词语及其类推问题”《语言文字应用》4 pp. 89-95

Momoko, Nakamura. (1990) Woman's Sexuality in Japanese Female Terms. In Ide, Sachiko and Hanaoka mcGloin Naomi (eds.) Aspects of Japanese Women's Language. pp. 147-163 くろしお出版.

付記 本稿は2013年日中対照言語学会第5回大会での発表内容に加筆修正したものである。本研究は2012年度浙江省教育厅科研课题「日语“性别标示语”的社会言语学研究」（课题番号：Y201225041研究代表者：徐微洁）の助成を受けた。

(じょ びけつ・筑波大学院生、浙江師範大学教師)